森基金・研究成果報告書

白　倩如

政策・メディア研究科　２年

学籍番号：81625400

研究課題名：在日中国人小学生における感情語彙の習得と応用

研究目的：

外国につながりがある子どもが増えており、多文化共生、国際的な教育は近年の日本の学校において、効果的に外国にルーツを持つ子どもに日本語・日本文化を指導できることが望まれている。感情の推論は子どもの社会性に対して、とても重要な一環だと考えられ、どのように自分の気持ちを表現し、そして相手の感情を読み取ることは日本人のこどもはともかく、日本の社会にスムーズに受け入れるため、外国につながりのある子どもにより重要なことである。学校側から有効な支援ができるよう、外国にルーツを持つ児童における感情推論能力と言語使用状況、滞日歴、教科学習、母国語の学習などの関係を探る。

今期の研究活動：

今学期は学部と院ゼミの他に、予備調査を行いました。調査の実施は広島基町小学校と尾道向島小学校で、日本人小学生および外国につながりがある小学生（１～4 年生）を対象として行った。課題としては以下の二つの部分が含まれる。

①感情理解

内容：顔と感情語の対応づけ課題

四つの感情語に対して、感情の強さの度合いと表情を対応付けられるかに関する課題

②気持ちの推論

感情推論課題は特定のシチュエーションの中で、主人公の感情を読み取る課題である。

内容：①内容理解課題

②感情を産出する課題

③シチュエーションにふさわしい感情語を選択する課題。

研究成果の報告：

(1) 低学年について

① ことばと表情の絵を結びつける課題について

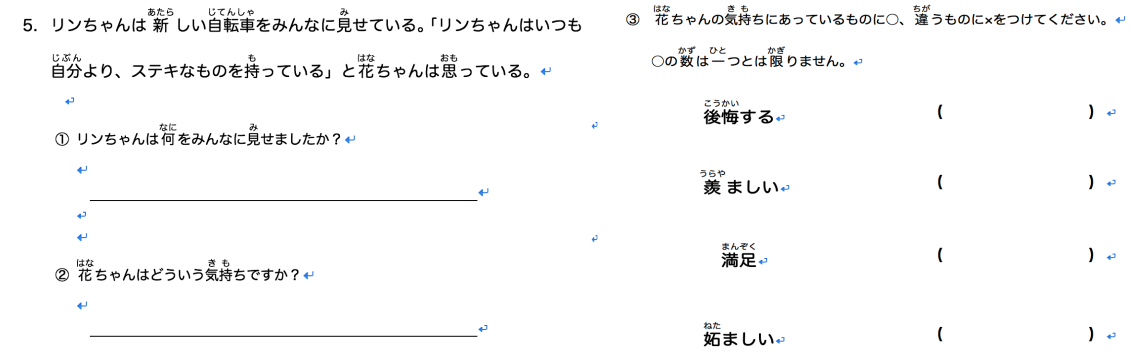
・「怒っている」、「悲しい」、「嬉しい」など、基本的な感情については、ことばと絵を結びつけることがよくできていた。しかし、「満足」、「嫌い」、「気まずい」、「疑っている」など、日常あまり使わ

れないことばが出てくると、まだ難しさがあった。

・1 年生では、空欄も多くあった。「気まずい」などは、まだ知らない単語だったため、選択しなかったのかもしれない。2 年生では、空欄は減っている。誤答のときには、正解と似ているがやや異なる表情を選択している例が多くあった。

② 気持ちの推論について

・2，3 年生とも下の問題（図２ 気持ちの類論・問題５）の正答率が低い傾向にあった。①と②の問題文の主語が変わっていたため、難しかったのではないかと考える。図３（気持ちの推論・問題７）の問題も正答率が低い傾向にあった。①の「太郎くんはいつ翔太くんとけんかをしましたか。」に対して、「しました。」「はい。」などの誤答が多かった。「いつ」をきちんと読みとれなかった、あるいは読まずに回答してしまった可能性が考えらる。


5. リンちゃんは新しい自転車をみんなに見せている。「リンちゃんはいつも自分より、ステキなものを持っている」と花ちゃんは思っている。

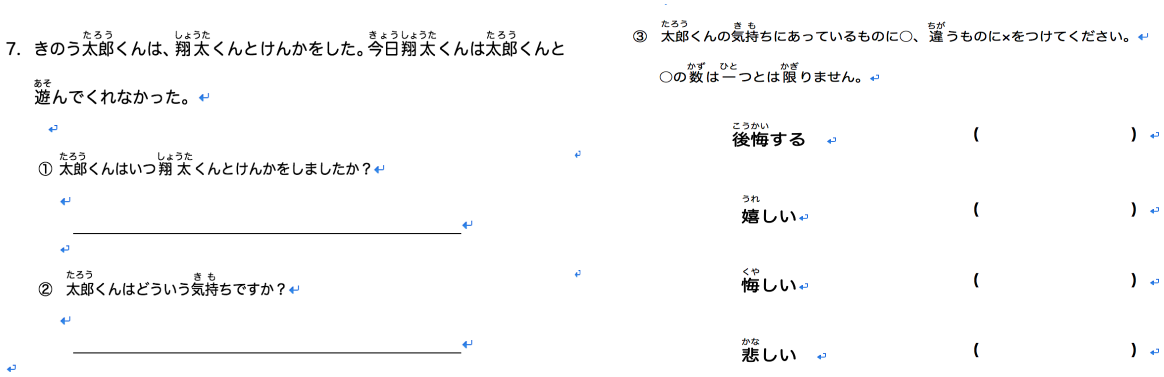
① リンちゃんは何をみんなに見せましたか？

② 花ちゃんはどういう気持ちですか？

③ 花ちゃんの気持ちにあっているものに○、違うものに×をつけてください。
○の数は一つとは限りません。

後悔する　（　　）
羨ましい　（　　）
満足　（　　）
妬ましい　（　　）

図２　気持ちの推論・問題５


7. きのう太郎くんは、翔太くんとけんかをした。今日翔太くんは太郎くんと遊んでくれなかった。

① 太郎くんはいつ翔太くんとけんかをしましたか？

② 太郎くんはどういう気持ちですか？

③ 太郎くんの気持ちにあっているものに○、違うものに×をつけてください。
○の数は一つとは限りません。

後悔する　（　　）
嬉しい　（　　）
悔しい　（　　）
悲しい　（　　）

図３　気持ちの推論・問題７

・単純な状況の理解では、場に当てはまる複数の感情を選択することができていたが、状況が複雑になると、場に当てはまる感情を１つしか選択できない傾向があった。

・「悔やんでいる」、「誇らしい」、「妬ましい」のような日常的にあまり使わない気持ちのことばは、あまり選択されなかった。

(2) 高学年について

② 気持ちのことばと表情の絵を結びつける課題について

・正答率は90%以上で、ほとんど正答していた。その中でも、「気まずい」は低い正答率だった。児童によっては、「気まずい」「疑っている」など、日常的にあまり使われていない気持ちのことばの正答が低いことがあった。

③ 気持ちの推論について

・気持ちのことばを書く課題では、気持ちのことばの代わりに、「いいなぁ」「自慢するな」など、会話のことばで回答する児童がいた。

・気持ちのことばを選ぶ問題では、複数の感情が選択できる場面を設定してあるが、一つの気持ちのことばしか選択していない回答が多くあった。

・「悔やんでいる」「妬ましい」など、日常であまり使われない気持ちのことばは、選択されない傾向にあった。

(3) あおぞら１～４組（特別学級）について

① ことばと表情の絵を結びつける課題について

・「満足」、「嫌い」、「気まずい」、「疑っている」など、日常あまり使われないことばが出てくると、まだ難しさがあった。誤答のときには、正解と全く違う表情を選択している例が多くあった。

② 気持ちの推論について

・気持ちのことばを選ぶ問題では、場に当てはまる感情を１つしか選択できない傾向があった。

・「妬ましい」、「誇らしい」など、日常であまり使われない気持ちのことばは、選択されない傾向にあった。

・後半部は空欄の例が多くあった。（調査を実施してくださった先生から「集中が切れたので途中でやめました」というメッセージもいただいた。）

(4) 今後考えられる指導の手立て

・より多くの読書が有効である。読書の中では、「妬ましい」「悔やむ」など、会話の中ではあまり使われない気持ちのことばも出てくる。読書によって、複雑な気持ちを表す表現を身につけることができる。

・物語文の読み取りなどで、登場人物の気持ちにあったことばを先生が意識的に使用し、また確認していくことで、ことばの定着が図られる。

・問題文をきちんと読まないで回答している例（図２の自転車の問題など）があった。問題文をきちんと読んでから回答するように、日ごろから心がけると良いと考える。

・同じ場面であっても、あてはまる複数の感情があることに気づく機会があると良い。物語文の読み取りや、日常の指導の中で、「驚く」と「喜ぶ」が同時にあるなど、複数の感情があることを意識

的に扱っていくことで、答えが一つとは限らない場面があることを知ることができると考える。

今回の予備調査の結果によって、これから課題についての改善方向などについて明らかになった。今後の課題として、調査の難易度をあげて、より差が出られるようにし、学力やバックグランドとの関係などの見ていきたいと思う。